

スターチスオリジナル品種「09D31」の育成経過と特性

1. はじめに

暖地園芸センターでは、本県特産花きであるスターチスのオリジナル品種育成に取り組んでいます。これまでに紫、黄、白色の品種を育成しましたが、ブルー系（淡い紫色）の品種がなく育成が望まれていました。そこで、県オリジナル品種の花色充実のため新たにラベンダー色の品種「09D31」を育成しましたので紹介します。



図1 「09D31」の写真

2. 育成経過

2009年6月に県内育成の品種系統を混植したハウス内で自然交配させ、選抜系統「ER00-02-2」から採種しました。播種後、がく色がブルー系の個体を選抜し、2010年から3年間、特性調査を行いました。その結果有望と認められた「09D31」を2013年3月に品種登録出願しました。

24年産の3月までの収量は16.0本/株で、「サンデーラベンダー」と「インペリアルラベンダー」の中間程度の収量性があります（図3）。また、階級別に収量を比較すると、「09D31」は2Lの割合が88.3%と高く、秀品を採花しやすい品種です。

3. 特性

本品種はがくの色がラベンダー色です（図1）。切花長は85.4cm、花房数は11.2個で、対照品種である「サンデーラベンダー」や「インペリアルラベンダー」と同等以上であり、ボリュームのある切花となります（図1、図2）。

4. おわりに

オリジナル品種には種苗の低コスト化や産地の独自性を強調出来るといったメリットがあります。今回育成した「09D31」に加え、現在、当センターではピンク系品種の育成に取り組んでいます。今後、オリジナル品種の拡充により、県内スターチス生産のさらなる振興に寄与したいと考えています。

（育種部 小川 大輔）

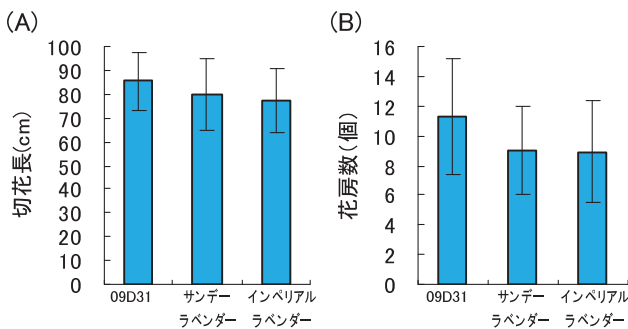


図2 供試品種の切花特性

(A) 切花長、(B) 花房数

調査期間：2012年10月29日～2013年3月19日

調査場所：暖地園芸センター内ガラス温室

最低夜温3℃

エラーバーは標準偏差を示す

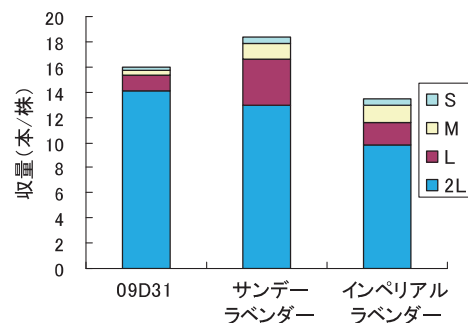


図3 供試品種の階級別収量

調査期間：2012年10月29日～2013年3月19日

調査場所：暖地園芸センター内ガラス温室

最低夜温3℃

「09D31」は暖地園芸センターで培養・育苗（低温処理5℃、2週間）、その他は購入苗